

令和2年度 第2回二宮町政策評価委員会 議事要旨

開催日時	令和3年2月25日(木) 10:00~13:30	
開催場所	オンライン形式	
出席者	委員	出席7名 湯川 恵子 委員長、川上 敏久 委員、今部 一良 委員、 小野寺 裕美 委員、三神 厚 委員、山崎 友彰 委員、 片岡 宇一郎 委員
	町	—
	事務局	政策総務部企画政策課3名
会議次第	1. 開 会 2. 委員長あいさつ 3. 議 題 (1) 各施策における評価及び意見について (2) 総論における意見について (3) その他 4. 閉 会	
配布資料	資料1 各施策における評価及び意見について 資料2 二宮町総合戦略評価に係る意見書の提出について(案) 参考資料1 二宮町政策評価委員会名簿	

【議事要旨】

(1) 各施策における評価及び意見について

(主な意見交換等)

※ ◎：委員長、○：委員、●：事務局

基本目標1 施策：公共施設の総合的なマネジメントとコンパクトさを活かした暮らしやすいまちづくり

- K P I「公共施設の総延べ床面積」について、施設の縮減が評価されることに疑問を感じる。例えば、駅前町民会館が廃止されたが、その後の活用については具体的な取り組みが出来ていない。また、新庁舎建設については、約2年半の議論を重ねた結果、今回「白紙撤回」という方向性が出されたようである。それらの状況を踏まえると、基本目標と施策、K P Iなどが合わなくなっているのではないか。町有地の活用は、総合的な議論の中で進められるべきだと思う。
- ◎ 新庁舎建設の検討の進捗はどのようになっているのか。
- 新庁舎建設は「白紙撤回」との結論には至っておりません。これまでの経緯としては、当初策定予定だった基本構想と基本計画のうち基本計画を、昨年度末に一旦白紙にすると結論を出しました。ただし、これは建設そのものを取りやめる意味ではありません。また、最新の情報としては、昨年開催した新庁舎建設町民ワークショップ等の意見を含めて、今後は、新庁舎建設単体ではなく、駅からラディアン周辺までの公共施設全体のまちづくりとして、庁舎を含め一体的に議論するという方向に転換しました。
- 経緯は理解したが、今のような状況が果たして町民に正しく理解されているかは疑問が残る。今回の政策評価とは別な問題になるかもしれないが、政策評価委員会で話題に出すことで、議論された意見が今後のまちづくりの中で生かされれば良いと思う。
- ◎ 新庁舎建設の経緯は理解したが、委員の意見のように町民理解が異なっている可能性は気になる。その他はいかがか。
- K P Iの設定の課題があるとの意見もあったが、施設利用についての状況把握をするためには、やはり利用頻度のような数値設定が望ましいと思う。他の事例をみると、駅周辺をターミナルとし、行政機能を集約させ、住民の利便性を追求したインフラ整備が進んでいるように思う。町の就労状況をみると、たぶん町外に勤務されている方が多いので、車や電車でアクセスしている方が多いと思う。利用者の動線を意識したものに設定すると議論が捗るような気がする。
- 新庁舎建設の計画はなんとなく理解はしているつもりである。ラディアンや駅周辺の活用も考えながら検討を進めているのは分かるが、やはり町のビジョンが見えてないことが課題だと思う。
- 新庁舎建設についてはあまりイメージが湧かない。公共施設という点では、地域の集会施設について検討が進められていることから、前進しようという姿は見える。ただし、具体的な取組については見えてこない。

- ◎ 評価にあたっては、令和元年度の実績をみることになっており、直近の情報までをいれることまでは求められていない。ただ、過去の蓄積の積み重ねが今日に至っているため、その流れを加味せざるを得ない。一方で、新庁舎建設に対する意見を当委員会で踏み込み過ぎることはできないので、もっと大局的に捉えていくことが重要だと思う。これまでの議論のキーワードとしては、「どのようなビジョンでまちづくりを進めていくか」、「町民に正しい情報が伝わっているのか」という部分であると思う。新庁舎建設の目的が、ラディアン周辺への建設にすり替わってしまい、町民にどのように利用してもらうかという本来の目的が薄れているように思う。
- ◎ 評価委員会としては「地方創生に効果があった」と評価し、意見としては、「町民とともにビジョンを作り上げること、町民理解を進めることも重要である」ことを追加する。

基本目標 1 施策：誰もが健康でいきいきと暮らせる環境づくり

- 地域の通いの場は、各地域で非常に頑張っているという感じがしている。また、未病センターについても、商連との連携による取組なども努力していると思う。自身が各取組に関わっているのもあるが、地方創生に非常に効果があったのではないかな。
- 同じく、地域の通いの場にサポート側として携わっているので、地域のご高齢の方の健康意識の高さと活動の活発化に関しては素晴らしいと思う。町でも、保健指導や様々な講演などを行っており非常に盛り上がりを感じている。一方で、参加率が高まるようになってくれれば良いなという思いもあり、まだ浸透していない部分もあると実感しているところである。
- 委員たちの意見を聞くまでは、活動の実態が分からなかったが、生の声を聞いたので、「地方創生に相当程度効果があった」と評価を改めてもいいと思う。せっかく努力されているので、その努力が伝わるような仕組みができればもっと良くなると感じる。
- 高齢者の取組が良いことは分かるが、総合戦略の目的である人口減少への対策としては、対象に偏りを感じてしまう。高齢者施策自体は良いことだが、本施策を見て、若い世代が二宮に住みたくなるかというところではないような気がする。そういう視点からは、あまり評価はできないと思う。
- 高齢者施策がきめ細やかに行われているのは評価できる。ただ、障がい者等に対する必要な情報や支援が行き届いていないことも聞くので、もう少し対象を広くみると必要があると思う。
- 県では、未病改善ということをキーワードに、県民の健康寿命の延伸を最重要施策として取り組んでいる。そうした視点から考えると、未病センターでの現場の声を生かした取り組みは、まさに健康寿命延伸に資する非常に効果があるものだと思う。また、「長寿の里二宮」という言葉は、古くから健康を意識していることの表れのようにも感じている。

- ◎ コロナ等の状況も踏まえると評価のバランスをどうとるのかという判断は難しいと思う。委員たちの意見のように、良い取り組みに対して、良い評価をすることは非常に素晴らしいと思う一方、高齢者以外の子どもや障がい者等の生活弱者を取りこぼしてはいけないとも感じる。誰も取りこぼさないようにしっかりと実行して行ってほしい。
- ◎ 評価委員会としては「地方創生に相当程度効果があった」と評価し、意見としては、「高齢者以外の生活弱者にも取組の幅を展開していく」ことを追加する。

基本目標1 施策：地域コミュニティの醸成支援

- 3、4年前に、地域コミュニティに関するアンケートを町民に実施した。コミュニティのイメージについては、「非常に助かる」という意見と「全く要らない」と両極端な意見があった。コミュニティに対する意識がもう少し発展し、盛り上がってほしいと思うが、なかなか醸成が進まないのが現状である。一色小学校区地域再生協議会では、町などの多くの支援を受けながら、様々な活動が行われているが、その取り組みを他の地域でも進められるかというのは無理だと思う。
- ◎ 一色小学校区地域再生協議会の取組や町からの支援等はどのようになっているのか。
 - 協議会は自治会とは別の組織です。人口減少が特に進んでいる一色地区で、国の地方創生推進交付金を活用して、モデル地区として取り組みを進めていただいています。持続可能な取組としていくために、国や町からの支援に頼らず、自立していく方法を模索していただいているところです。
 - 補足します。当初、地方創生という流れの中で、町の中で課題が一番端的に表れているのが北部の一色であるということで取組を進めており、現在この取組を総括する時期を迎えています。その中で、やはり最終的には「学校を核とした地域づくり」、「地域を核とした学校づくり」が重要ではないかとシフトしつつある状況です。今後は、協議会の取り組みをそのままトレースするというより、全地域で共通して取り組めることを展開していくというイメージです。
- ◎ これまでの実績の中から、全体でできることを整理し抽出し、他の地域に展開していくという流れという認識かと思う。
- ここでの「地域コミュニティ」が協議会や自治会等の中の意味として捉えたらいいのか難しい。現在、町に転入してきた新しい人の中でのコミュニティが出来つつある。色々なコミュニティの取り組みをまちづくりの中に上手く繋がっていいと思う。
- 協議会は、国の交付金や県住宅供給公社等の助成を受けて様々な活動を行ってきた。財政的な問題はあるが、これまでの取り組みを上手く継続して地域を盛りあげていただきたい。
- ◎ 一色小学校区地域再生協議会で培った良い取り組みを、今後、いかに他の地域にも展開していくのかに目を向けてもらうことに期待するという意見になると思う。

- ◎ 評価委員会としては「地方創生に効果があった」と評価し、意見としては、「地域コミュニティの考え方や意識醸成などの今後の展開」を追加する。

基本目標1 施策：災害や犯罪に備える地域づくり

- 町は災害が少ないので、安心してしまっているような気がする。今後何が起こるかわからないので、さらに、防災意識を高めるために具体的に進めていただきたい。
- ◎ 防災指導員の取組があるようだが実態はいかがか。
- 通常、防災指導員は、年7～8回程度集まり様々な活動を行っている。自分自身も委員だが、今年度はコロナのため例年のような活動はできていない。ただ、町の取組や姿勢は伝わっている。
- 地区防災マニュアルの策定もだいぶ進んでいる。また、近年、台風による避難所開設等もあり、実体験を通じて、災害における具体的な動きが理解できるようになった。コロナの影響はあると思うが、今だからできることもあるはずなので、様々な状況への備えを頑張っていたいただきたいと思う。
- 災害に強いことは売りになる。古い文献を調べたところ、元禄時代の大地震や関東大震災等では、梅沢の宿場があった辺りでは大きな被害は出なかったとのことである。ただし、北部等の一部のエリアでは被害が大きかったような記載もあったが、現在の人はそのままで知らないのでは危機感が薄れてしまっているのではないかと。また、町民の防災意識向上を求めるだけでなく、例えばハード対策などの町としての取組ももっと発信した方がよい。
- 今年度の町の動きとしては、コロナ対策を含め避難所運営備品を整えたことが大きなものだと思います。
- 備品を揃えるだけでなく、公の立場として積極的に取組を進めていることを訴えることで、町民の防災意識の向上につながると思う。
- ◎ 評価委員会としては「地方創生に効果があった」と評価し、意見としては、「町民の行動を促す意識改革や防災対策に対する広報強化の重要性」を追加する。

基本方針2 施策：「にのみやLife」の提案と発信

- KPI「「にのみやLife」PRのHP閲覧数」については、減少に対する対策を単体で進めるより、その他の取組と併せて、視野を広く持ち相乗的に改善することが重要だと思う。
- HPに掲載することが、必ずしも情報の伝達につながらない。年間3万6千回の閲覧数が果たして多いといえるか疑問である。個人のSNSのアカウントでも、月に1、2万ほどのアクセスがある。
- ◎ 原因を掘り下げて分析する必要がある。どのページに、どのような方がアクセスしているのか、もう少し明確にしていけたら良いと思う。また、コロナで地方への移住への需要が高まりつつあるので、そこをチャンスととらえて、どんな情報をどうやって発信したらPRにつながるのかが重要になってくる。
- 補足ですが、「にのみやLife」PRのHPとは、町のHPの中で、シティプロ

モーションに特化したページです。なお、平成 28、29 年度の閲覧数上昇につながる大きな要因は、シティプロモーション動画「菜の花畑のニーノ」の投稿になると思います。一時期、全国のシティプロモーション動画で 6 位になり、知名度の上昇につながったのだと思います。

- ◎ K P I として流入人口が考えられるがいかがか。
- 人口増減には、自然増減（出生・死亡）と社会増減（転入・転出）の 2 種類があります。シティプロモーションの成果を確認するうえで、社会増減を 1 つの指標としており、総合戦略でも、施策の上の基本方針の成果指標として位置づけています。
- 町内には色々なコミュニティがあり、様々な形で情報を発信しているので、町の H P の閲覧数では少し限定的に感じる。先ほどの社会増減等、町内の全体の動きが捉えられる数値であると良いと思う。
- ◎ K P I の設定の課題については、評価システムに関する意見にリンクしてくるのだと思う。今回の意見書の中でこのあたりに触れることは可能か。
- 第 1 期の総合戦略の K P I の設定については、町としても課題を感じており、第 2 期では、複数の K P I を設定するなどの改善を図りました。本委員会の意見としては、この施策に特化して表記するのであれば、施策の意見の中で書くこととなりますが、全体を通じてであれば、総論の中で書くことも可能だと思います。
- ◎ 評価委員会としては「地方創生に効果があった」と評価する。また、K P I について「評価を通じて町の求める方向が明らかになる指標の設定」を追加する。

基本方針 2 施策：二宮を知り、二宮に触れ、二宮を体験できる環境づくり

- ◎ K P I 「文化・芸術活動に対する評価」が何を示しているのか。
- 毎年、総合戦略の進捗を把握するために、町民 1,000 名を無作為抽出しアンケートを実施しています。調査としては、この取り組みに対し満足している度合いを「0」を起点にし、マイナス側に満足していない評価、プラス側に満足している評価を「-2 から 2」の間の 5 段階で評価していただきました。それらの平均値が実績値になります。町側の意図がなかなか伝わっていないことは課題であると認識しています。
- 基本目標も施策も幅が広すぎて、進むべき方向性が見えてこない。明確な方向性を打ち出し、町民と共通理解を進めることが重要である。
- ◎ K P I 「図書館の来館者数」が平成 30 年度以降大幅に減少している理由は何か。
- 来館者をカウントするための機器の入れ替えを行ったため、カウントの方法が変わりました。
- ◎ 評価に含めるのは厳しいと思う。現在、コロナの影響もあるので、ラディアンを活用してのイベントなどは動きが取れない。コロナも含め、今後のイベントのあり方を全体的に見直す時期を迎えているのだと思う。
- 全施策通じてそうだが、K P I で評価するのは難しいと感じる。図書館へ行く人はやはり限られており、そんなに大幅な変動はないと思う。来館者を増やすとなると、図書館や施設で出来ることを情報提供し、利用者を掘り起こす必要があるのでは

はないか。

- ◎ 今後、「体験できる環境づくり」はリアルな体験ではなく、違う形のものを模索する必要があるのかもしれない。
- ◎ 評価委員会としては、「地方創生に効果があった」と評価する。

基本方針2 施策：特色ある学校教育による子どもたちの生きる力の育成

- コミュニティ・スクールは、地域の力を活用して、子ども達により良い教育環境を作るために進められており、5校の会長の連絡協議会などが作られるなど取組が強化されつつある。今後も、ぜひ推進していただきたい。
- 元教員の立場からしても、学校教育はある程度評価できると思う。コミュニティ・スクールに携わっている中で、取組を今後どのように展開するべきか悩みを感じることもあるが、前進している姿をみて「地方創生に相当程度効果があった」と評価した。
- コミュニティ・スクールが5校揃い、PTAなども含め良いつながりが出来ている。人材確保など様々な課題はあるが、町からの支援も受けつつ、良い方向につながっていただきたい。
- ◎ 委員の意見を聞くと、評価が高いのかなと思う。「地方創生に相当程度効果があった」ではなく、「地方創生に非常に効果的であった」ということも考えられるがいかか。
- 取り組みが素晴らしいのは確かだが、今後の展開を期待するという意味で「地方創生に相当程度効果があった」で良いと思う。今後の展開においては、必要な予算措置を町にはぜひお願いしたい。また、人材確保については、様々な経験をされた方が地域にはいるので、地域としてサポートしていきたいと思う。
- ◎ 今後、特別な支援を必要とする児童生徒は増えていくと思う。町として出来ることは当然やっていただきたいが、費用や人材確保の面など様々な課題はあるので、様々な主体が上手く連携することが必要である。
- コミュニティ・スクールなどの取組は町外に情報発信されているのか。小中学校に携わる機会がないからかもしれないが、体感として、こういった情報が伝わってこない。この取り組みは町の魅力になるので、町外に積極的に発信し、人を呼び込むべきだと思う。
- 組織が立ち上がったばかりであり、まだまだ地域にも浸透していないような状況である。まずは地域の理解を深め、町外への発信は今後の課題となると思う。
- ◎ 評価委員会としては、「地方創生に相当程度効果があった」と評価し、意見として、「取り組みの情報発信の強化」を追加する。

基本目標3 施策：子育て世代を見守り、支えるための妊娠期、出産期、育児期における切れ目のない支援と環境づくり

- ◎ K P I 「子育て環境に対する町民の評価」については、K P I 「文化・芸術活動

に対する評価」と同様に、町民アンケート結果によるものか。

- そのとおりです。
- ◎ 他の自治体の事例によると、育児休暇を延長するためにあえて待機児童になることを選んでいくようなこともあるようである。単にKPIを「待機児童数」にするのではなく、第1希望で入所できた数などにすると、具体的な中身に踏み込んだ議論ができると思う。
- 子育てサロンや学童保育所など、目に見える形での進捗があったので評価ができる。委員長が言ったように、保育の質についてはまだまだ課題があるように感じる。様々な受け入れ体制が整っていても、実際にサービスが必要な保護者に知られていなかったり、壁を感じたりして、繋がりを構築できていないのは課題だと思う。
- KPIの進捗をみて「地方創生に効果があった」と評価したが、子育て世代の意見を聞いてみると「地方創生に相当程度効果があった」と評価しても良いと思う。
- ◎ 評価委員会としては、「地方創生に相当程度効果があった」と評価し、意見として、「支援体制に繋げるような情報発信の強化」を追加する。

基本目標3 施策：子育てと仕事の両立の推進

- この施策は何をやっているのか見えないため評価しづらい。
- ◎ 次の施策とも関連してくるが、「子育てと仕事の両立」の実現は重要なことではあるが、町として出来る取組としては難しい。また、町外に勤務されている場合の支援はどのようにアプローチすべきか見えてこない。また、実績の中で、「働く女性にスポットを当てた男女共同参画フォーラムを開催した」とあったが、意識改革するためには「女性」「男性」と偏るのではなく、男女ともにアプローチすべきである。KPI「役場男性職員の育児休業取得割合」は頑張って設定したのは分かるが、やはり無理があるように思う。ただし、役場でこの取り組みはぜひ進めてほしい。
- 意見案に、「今一度原点に立ち返って見直す必要がある」との表記があるので、町も含めこういう感覚を持っているのであれば、「地方創生に対して効果がなかった」でいいと思う。
- ◎ 「原点」は何を示している不明であるため、削除で良いと思う。ニーズ分析の掘り下げについては、もちろん必要になる。
- 先ほど意見があったように、男性の意識改革の部分はやはり見えてこない。
- ◎ この施策は積極的に評価しづらい。意見の部分は、最後の段落を施策自体の評価として2段落目にもってきて、2段落目部分を施策自体の課題として強調してみてもどうか。
- そもそも本施策は町の課題なのか疑問である。本来であれば、勤務先の職場環境で改善するものであるような気がする。例えば、1つ前の施策と統合するのであれば、子育てと仕事の両立に繋がるような施策になると思う。
- ◎ 評価委員会としては、「地方創生に対して効果がなかった」と評価し、意見として、「今一度原点に立ち返り」という表現を削除し、2段落目と3段落目を入れ替え

ることとする。

基本目標4 施策：地域にしごとを生み出し、資金を循環させるしくみづくり

- 商工会と連携して創業塾を開催するなどの支援を進められているが、商工業全体の施策としては弱いと思う。
- 小さいお店の開業であれば可能であると思うが、町での起業・開業はとても難しいと感じる。今回、創業塾というものがあり、多くの方が参加されていることを知った。少し前進しているように感じられたので「地方創生に相当程度効果があった」と評価した。
- 商工業の進展が町の活性化の重要なポイントだと思う。その中で、施策の取組が1つしかなかったので、推進が弱いように感じた。
- ◎ 現在のKPIだけでは非常に評価しづらいというのも事実である。また、KPI「町内起業・開業件数（商工会加入件数）」は、創業に至るまでのハードル、創業してから経営を続けるハードル、さらには商工会に加入するハードルなど、様々な壁があるため、もう少し手前の創業支援数を設定し、土台が固まったら指標もステップアップできる方が現実的だと思う。評価については、施策の「資金を循環させるしくみづくり」という部分は何も判断する材料がない。まずは、土台づくりが重要だと思う。
- 雑貨や飲食店など小さいお店が開業している印象がある。
- ◎ コロナの影響もあり、今後は開業数を見ることは難しいと思う。
- コロナの影響については、今年度は国の交付金を活用して、商工会や商連と連携して取り組んでいる。商工業の活性化が町の活性化にもつながるので、今後も町と連携し継続していきたい。
- ◎ 伴走支援については、創業後のみならず創業前から必要になり、切れ目のない支援が必要である。
- ◎ 評価委員会としては、「地方創生に効果があった」と評価し、意見として、「創業前から創業後の切れ目のない伴走支援に取り組む」ことを追加する。

基本目標4 施策：町の環境を活かした再生可能エネルギーの地産地消等の可能性検討

- ◎ 昨年度、基本目標に対する本施策の位置づけが適正なのかという議論はあった。施策自体の課題もあると思うが、取り組みに対する評価はいかがか。
- プロジェクトの1次評価が「休・廃止」となっているが、やはりコストの面からの課題によるものなのか。ただ、これまで取り組んできた実績もあるため、町の負担にならないように上手く収束してもらえると良いと思う。
- ここでの「休・廃止」の意味としては、総合戦略の事業として位置付ける必要がないと方向性を出したもので、事業自体は継続して実施されます。
- 再生エネルギーは地球規模で進めていくものであるため、町規模でどこまででき

るのかは不明である。K P I等の状況により「地方創生に効果があった」と評価したが、町としてこれ以上推進が見込めない状況から「地方創生に相当程度効果があった」に変更としたい。

- ◎ 町としての実現困難な分野ではあることはこれまでの取組からは分かったのではないかと思う。
- ◎ 評価委員会としては、「地方創生に効果があった」と評価する。

基本目標4 施策：身近な地域で働く希望を叶えるための雇用創出

- 方向性を明確にしてリードしていくのが行政の役割だと思う。生産量にまだまだ課題はあるものの、湘南二宮オリーブの地域ブランド化に向けて取り組んでいる。この取組は町の価値を高めるものであり、将来的には産業で何か生み出せていけるように商工会としても色々考えている。町としても積極的にリードをしていただきたい。
- ◎ 雇用創出と考えた場合、大規模な企業を誘致して雇用を創出するのと、小さいお店を創業して雇用が創出されるのとでは規模感が変わる。意味が幅広く捉えられる項目だと思う。具体的にどの方向性を目指しているのか明確にすることで、現実的な取り組みに繋がる。
- ◎ 評価委員会としては、「地方創生に効果があった」と評価する。

(2) 総論における意見について

(主な意見交換等)

※ ◎：委員長、○：委員、●：事務局

- ◎ 総論では、資料2のように施策の評価と評価システムに対する意見をまとめてしまうと分かりづらいため、表記を分けるという方向性で考えている。細かい表記の仕方は、後ほど事務局と調整させていただくが、総論についていかがか。
- 先ほども意見が出ているが、K P Iのあり方や設定方法は課題がある。
- ◎ K P Iについては、施策とのマッチングも含め色々課題はあるようである。ただ、第2期ではそれらの課題を含めて、可能な限り定量的な目標を設定しているとのことなので、今後、説明責任が果たせるように評価を行っていただきたい。
- やはり町のビジョンが見えないことが課題だと感じる。どういうまちにしていくなかが見えることで、そこでの生活がイメージできる。ビジョンが見えれば、例えば企業の誘致、シェアオフィス、リモートワーク環境の整備など、具体的な提案がしていけると思う。
- ◎ ビジョンが町民と共有できなければ、やはり共感にも繋がらない。現在のままでは何か定型的な言葉にしか認識されず、本質な部分の共感には至っていない。生活者視点で10年先、20年先の未来の見せ方に注力していただくことが必要である。その未来の見せ方が文字通り「にのみやL i f e」に繋がり、町の魅力になるのだと思う。
- 12本の施策を見ると、総花的でどれも無難に見えてしまう。やはり本当に必要

なものに絞って町の強みとして進めていくことが重要だと思う。また、町民に分かりやすい評価を見せるようなことも必要である。例えば、通信簿形式にし、評価を数値化してみるなども考えられる。また評価を積極的に公開して、そこからまちづくりの議論を喚起することもできるのではないか。

- ◎ 施策の中で、コミュニティ・スクールの取組が評価されていることから、そういった部分を二宮の魅力として打ち出すなどメリハリがあるものにできたら良い。また、通信簿形式の評価については、確かに町民に馴染みのある数値に置き換えると分かりやすいものとなるかもしれない。
- 行政一般的に言えることかもしれないが、広報が上手くないと思う。戦略的な広報が展開していければよいと思う。
- 二宮町では新庁舎建設について関心が高いと思うので、何か入れることはできないか。庁舎のみの建設を中心に議論が進むことは反対も大きいと思うが、例えば、コミュニティ・スクールや子育て支援も行える総合的な施設としての庁舎建設となれば感じ方も変わってくるのではと思う。
- ◎ 新庁舎建設などは別で検討されていることから、評価委員会では個別の事例にあまり踏み込み過ぎた意見は提案できないと思う。ただし、本委員会の意見書を町長に提出する際には、議論がされた一つの項目として報告させていただく。
- ◎ 総論としては、施策と評価システムの内容に表記を分け構成を変更するとともに、町民とともに作り上げるビジョンを示してもらうような内容を追加することとする。

(3) その他

- ・ 本日の議論を基に、事務局で修正案を作成します。ご意見がありましたら、事務局にご提出ください。なお、最終的なとりまとめは、委員長一任でお願いします。
- ・ 本日の議事録を作成するため、確認作業にご協力ください。

【以 上】